

平成 30 年度第 2 回古賀市スポーツ推進審議会【地域部会】 会議録  
(要約筆記)

(座長)

- ・ただ今から平成 30 年度第 2 回古賀市スポーツ推進審議会地域部会を始める。地域部会座長の橋本です。
- ・「取組についての現状と課題」と「専門部会のルール」の資料に基づいて、今日の議事の進め方について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

- ・総合型地域スポーツクラブの調査研究については、第 1 次古賀市スポーツ振興計画で校区コミュニティに 1 つの設置目標だった。
- ・平成 23 年 10 月代表区長会や校区コミュニティ説明会を開催した。その後、中学校エリアからスポーツ活動が活発な小学校区を選択し、古賀中エリアから古賀西校区、古賀北中エリアから千鳥校区、古賀東中エリアから小野校区と協議を実施した。
- ・平成 24 年度、古賀西と千鳥がクラブ創設準備会を立ち上げたが創設には至っていない。
- ・人材バンク制度については、「健康づくり」と「競技スポーツ」関連の登録はあるが、市としての方向性を示すことができていない。
- ・交流スポーツについては、具体的に調査研究ができていない。
- ・加えて、2020 年オリンピック・パラリンピック後の地域スポーツの生かし方についても、地域部会で協議をお願いしたい。

(座長)

- ・協議を始める前に、「地域」についての認識を共有したい。

(委員)

- ・生涯学習基本計画を策定した時に、小学校区を中コミュニティとした体制づくりを始めたが、行政区(小コミュニティ)長制度を廃止できず今日に至っている。小コミュニティは区長が替わると行政区活動が大きく変わる。

(座長)

- ・人口や高齢率のバラつきがある行政区までは考えづらい。

(委員)

- ・小学校を核として PTCA があるが、校区によって組織体制が異なっている。
- ・校区コミュニティに管理職が入ってるところ、西校区のように組織と一体化しているところなど、いろいろある。

(委員)

- ・地域部会は、小学校校区を地域として取り上げていく。
- ・取組項目①総合型地域スポーツクラブ基盤づくりについて委員の意見を出してほしい。

(委員)

- ・県内では長続きしない状況である。
- ・toto の補助金は創設準備期 2 年と、創設から 5 年間ある。
- ・補助金がなくなるとクラブは不安定となるため、会員制運営やクラブマネージャーを要する。そして、事務局の仕事量(申請書・報告書の提出書類)が半端なく多い。
- ・西校区は 1 年間で準備会を解散し、校区コミュニティ独自のスポーツ運営を行っている。

(座長)

- ・事務局ができなかった理由は何だったのか？

(委員)

- ・西校区で総合型地域スポーツクラブの準備会を立ち上げた際は、事務局が行政現職で僕もまだ現役だった。現役ではできない。
- ・体育協会の事務局が総合型地域スポーツクラブの事務局を兼務できないかと思う。市でひとつの事務局を置いて校区クラブの運営を支援したいと思う。

(委員)

- ・アクション企画情報課在籍の時は、県内各地に「総合型地域スポーツクラブをつくってください」と言っていた立場であった。しかし、現状はtotoの補助金がなくなった時に、地域は元気を失っていく。
- ・総合型地域スポーツクラブは、ヨーロッパをモデルにして文部科学省がすすめているが、100年以上のスポーツ文化があることや、学校体制やクラブハウスの維持管理制度が日本とは違う。受け入れと継続が難しい。補助金がなくなる後の姿を知っておくことは重要である。
- ・福祉部門は国の運営策として、地域で担っていくことを前提に進めている。
- ・福祉は無料、スポーツも体育協会が行えば無料というイメージがある中、総合型地域スポーツクラブは有料で行えるか？「無料でできる」が根付いていないか？
- ・年代、スポーツ人口を踏まえターゲットを置くこと、将来的な姿を見据えて設置しないと失敗するのではないか。
- ・健康・スポーツは無料が根付いている。総合型地域スポーツクラブ運営を賄うための会費を取ることはできるのか？

(委員)

- ・古賀南区は健康体操教室を1回500円払い講師謝金に当てている。10人来たら講師は5,000円受け取っている。

(委員)

- ・古賀南区、古賀北区(100円)は参加者が支払って事業参加している。

(座長)

- ・添付資料はスケールが大きいが、補助金を断り独自スタイル・古賀スタイルだったら、「こういうものが良い」と思うものを出して欲しい。

(委員)

- ・toto補助金はいらないスタンスが良いと思う。古賀市として総合型地域スポーツクラブを必要としているかが重要である。

(事務局)

- ・toto補助金を受け、その後も運営が上手くいっている地域総合型地域スポーツクラブの成功例を教えて欲しい。

(委員)

- ・体育協会が総合型地域スポーツクラブを運営している場合は、ボランティアベースで運営している。
- ・専従者を置かないことが前提である。この場合、総合型地域スポーツクラブのみで収入を得ることを考えなければできないが、次を担う人がいないパターンが多い。
- ・ボランティアベースだと高齢者になって次世代につないでいく時に人がいない。
- ・ボランティアで家族は養えない。

(委員)

- ・陸上でクラブ運営が上手くいっているところがあると思う。

(委員)

- ・SSSは法人格をとり、指定管理で行政のお金が入り専従者を、それで雇っている。
- ・粕屋イーグルスは運営が成り立っている。ここは、筑紫野サッカーを中心の総合型地域スポーツクラブ運営でビジネス感覚がある。
- ・企業的な考えがないとやっていけない。しかし、もともと、スポーツを好きになって欲しいという根っこがあるのに、利益を上げないといけなくなってしまう。
- ・椎田町の総合型地域スポーツクラブは高齢者が仲間内で行い、障がい者スポーツも行っている。高齢者が多い総合型地域スポーツクラブの印象がある。

(座長)

- ・古賀市としてどこをめざすかが大切である。

(委員)

- ・西校区はホッケー教室を実施している。受益者負担で会費を集めている。
- ・社会体育クラブに入っていない子ども達が夢中になって集まってくる。技能も上達している。

(事務局)

- ・人ありきだと感じている。

(委員)

- ・子どもは忙しく、継続して毎週は難しい。イベントやスポットとして集まるのは校区単位でも出来るが、やり続けるのは難しい。
- ・中学校で部活やジュニアユースに入るため、ずっと所属するクラブにはならないと思う。
- ・中学・高校になるとアスリートや高いレベルへと求めるため、自然とクラブから離れる。

(委員)

- ・社会体育クラブは保護者の負担があるが、ホッケー教室はそれがないので親に負担がかからず、校区内なので安心して出せる。

(座長)

- ・総合型地域スポーツクラブは、人も必要で、しほりもある、それを色々なところで実施していくのは無理がある。
- ・古賀市としてどこをめざすかが大切である。

(委員)

- ・やってる人のベクトルが違うと思う。
- ・過疎や若い人が少ないなど財政的な厳しさがある地域は、やらざるを得ないことがある。
- ・ある総合型地域スポーツクラブでは、子どもや高齢者の会員分をクラブでお金を払って支援している運営もある。
- ・古賀など福岡近隣は既存の団体が元気で組織がまわっているので、総合型地域スポーツクラブは難しい。
- ・新たな団体が発足すると既存意識が働いたり、子どもが所属先を移動したりすると運営している保護者会や指導者間もうまくいかなくなる。総合型地域スポーツクラブは上手くやらないと、もめる要素になる。

(委員)

- ・コミュニティの交付金 70 万円があるからスポーツもできる。

(委員)

- ・無料でやることはできるが、会費制になったり、プロ集団になったり、会費を取るようになると、今まで良い人だったのに悪い人になる。

(委員)

- ・技能向上クラブなどと分けていくと良い。学習塾なら払う。

(座長)

- ・25 年前に調査した生涯学習(学習活動)に月額払う費用は 5,000 円程度だった。良ければ払うことだと思う。

(委員)

- ・高齢者は「年金者生活だから 500 円なら払う」と言われる。

(委員)

- ・福岡市の場合、市内はバス、地下鉄を利用し移動もでき、公民館は無料で何でもできる。福岡近辺は同じように財源面に豊かさがあるので、「無料」が一般的で根付いている。

(座長)

- ・古賀に合うか否かがポイントである。

(委員)

- ・教職員は、働き方改革もあり部活指導を好きでやってる教員ばかりではない。
- ・地域の方が人材バンクに登録してもらえれば有難い。指導者の意識は、市が育成していく。
- ・指導をやりすぎてスポーツ障害やパワハラ・セクハラが出てくる。
- ・人材を育てて地域から出てきた時、中学の部活に適用できる。

(座長)

- ・人材バンクを行政が持っているのか？

(事務局)

- ・余暇時間を活用し、地域貢献する人材バンクは福祉部局にある。
- ・社会教育の人材バンクにもスポーツ指導者の登録はあるが、現在、人材バンクの制度自体が動いていない。

(座長)

- ・各データベースは連携しているのか？

(事務局)

- ・福祉部と生涯学習推進課のウォーキングは方向性を協議して地域で活用を考えているが、体育協会との協議はできてない。

(委員)

- ・県にも人材バンクがあるが、人となり人材バンク登録だけでは見えないので、求めている人と登録する人とマッチするのが難しい。広域になればなるほど難しいと思う。

(座長)

- ・校区だと直接顔が見え、つながることができる。

(委員)

- ・体育協会では、いつも話は出ている。

(委員)

- ・総合型地域スポーツクラブのパターンや課題について話はできた。
- ・国は自治体に1つと言っているのも、創るのであれば持続可能で、あまり大きくしないクラブであれば良いのではないかと思う。

(座長)

- ・国からくるものは、やるときは楽だが、後が大変である。

(委員)

- ・お金のことをいえば文部科学省より厚生労働省の補助の方が安定し持続できる。

(座長)

- ・以上で、第2回古賀市スポーツ推進審議会の地域部会を終了する。